

イネ科通信 1

(道場の観察会から)

1. イネ科植物の葉の反転について

反転とは葉身が裏返し、葉身の表裏が反対になることです。葉は細長いので反転しやすいのでしょう。反転するものは多年草ですが、多年草の葉がすべて反転するわけではありません。反転しないもの：ススキ、アシボソなど。

(反転例) カモジグサ、アオカモジグサ、ウラハグサ、キツネガヤなど多数多年草ですから根がしっかりしています。一度引き抜いてみてください。

一年草はエノコログサのようにヒゲ根です(フシネキンエノコロは多年草)。

●チガヤは多年草ですが反転するか、しないかどちらでしょうか。



アオカモジグサ

2. 芒(のぎ)の反り返りについて

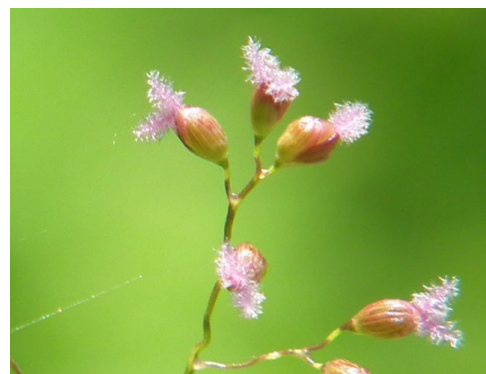
上記のアオカモジグサは成熟してくると芒はそり返ります。(カモジグサの芒は反り返りません)。アオ(アホ)は曲がると覚えます。この芒の反り返りの典型的なものにカニツリグサがあります。未成熟なものと成熟したものとは別種にみえます。図鑑に記載されているものは後者です。今月27日(金)の桜井・山野草の里ではキツネガヤがたくさんみられると思われます。多分、葉身の反転を観察できるでしょう。



カモジグサ



カニツリグサ



チゴザサ

3. チゴザサについて

可愛いので誰からも愛されます。小穂はほぼ楕円形で、開花時には頂から紅紫色のめしべの柱頭が伸びて目立ちます。道場でみられたのはこの状態でした。

4. エノコログサ型小穂(野草図鑑③ 長田武正著 p193~195 より引用)

エノコログサの小穂はちょっとみただけでは1小花よりなるようだが、本当は2個の小花よりなるもので下方の小花が退化したものである。トダシバ、ヌカキビ、イヌビエなど、この型の小花をもつものである。チゴザサは一見1小花よりなるように見えるが、よく見ると包穎に包まれて、大きさも形も変わらない小花が2個入っている。2個とも完全で、おしべとめしべをもち、結実する。エノコログサ型の小穂は、チゴザサ型の下方の小花が退化したものとして説明できる。

(詳しくは上記、野草図鑑をご覧ください)



ヌカキビ